



森林施業プランナーのお仕事とは？

森林施業プランナーに認定されると森林所有者から信頼を得て、提案型集約化施業に取り組みやすくなります。有資格者の戸田ひろみさんに話を聞きました。



株式会社 戸田組 取締役
戸田ひろみさん

一級土木施工管理技士、林業技士（森林総合管理・経営・環境）、作業道作設士、森林施行プランナー、森林評価士

地域の森林荒廃をきっかけに
森林再生に向けて事業をスタート

私は岐阜の山奥育ちで、幼い頃から木に登り、山の中を駆け巡っていました。結婚を機に新潟に来ましたが、戸田組が林業に着手したのは10年前からです。荒廃した地域の森林を見て「私たちがやらなければ災害が起こってしまう」と、森林整備部門を立ち上げました。



森林施業プランナー（以下、プランナー）の資格を取得したのは、森林所有者さんに山を整備する必要性を文章でプランニングしなくてはと思ったからです。理解してもらうための裏付けをきちんと証明できる知識と信頼を得るために、そして自分のやってきたことが間違っていないかを確認するため試験を受けました。今も資格があるからではなく、私、戸田ひろみがこの仕事に責任持ちます」と示すために、自分の力を確かめ

る意味で勉強を続けています。

現場での経験や努力を重ねてこそ
プランナーの知識が生かされる

プランナーの資格はある程度の知識があつて、整備計画も立てることができまふよというお墨付きみたいなもので、実際にプランナー取得で得た知識だけで相手を納得させられるほど、現場は簡単ではありません。

一番難しいのは所有者さんとの話し合いです。例えば説明会はプランナーの大事な仕事ですが、大人数が共同で二つの森林を所有している場合、全員が賛同するような説明会を開催しなければなりません。ドローンやGIS・GPSなどのソフト部分を活用してオリジナルの資料を作っています。

大勢の人に納得してもらうためにはとにかく根気が必要です。そして、プランナーとして山の安全に責任を持つためには長い時間、山を見続けることが重要です。現場には何度も足を運んで判断力を養いましょう。

プランナーを取得し、経験を経る
ことで人間としても成長できる

うちでは所有者さんは作業中でも、気軽に現場に来て良いことにしています。所有者さんに自分の山にもっと関心を持ってもらい



たい。森林整備は実際には所有者さんが作業をしているわけではありませんが、参加しているという意識を持つてもらえたら、とても大きな成果だと思ふんです。

そのためには所有者さんに山への思いを聞くことが大切です。自分のものではない山に関わるということは、所有者さんたちの思いを十分に受け止めて、敬意を持って山に入らなければならぬと思います。プランナーは所有者さんの話を聞きながらも自分がやらなければいけない計画とのバランスを上手に取らなければいけません。聞く力が磨かれると人生が豊かになりますよ。プランナー取得をきっかけにいろいろな経験を通して人間としても成長されるといいなと思ふいます。

私は65歳までに引退したいと思っています。それまでに私が林業で経験したことや本当の意味でのプランナーとしての“人との関わり”を伝えていけたらと考えています。